



47 扁平上皮癌 Squamous cell carcinoma

概 説	粘膜上皮から発生する癌腫。口腔では最も発現頻度の高い悪性腫瘍。
分 類	非歯源性，上皮性，悪性腫瘍
好発部位	舌側縁＞歯肉(下顎＞上顎)
好発年齢	50 歳以上
性 差	男性＞女性
経 過	短い。悪性腫瘍であり，短期的なスパンで大きさに変化が出る。
転 移	頸部リンパ節に高頻度に転移する(顎下リンパ節，上深頸リンパ節)。 血行性にも肺などに転移するが，リンパ節転移よりずっとあとのことが多い。
肉眼所見	潰瘍性病変：周囲の堤防状の隆起と中心部に潰瘍の形成を示す。 癌性潰瘍の特徴：辺縁隆起，周囲硬結，中心部の出血 白色病変：表面が白色(角化の亢進)を示す。 隆起性病変
組 織 像	癌真珠の形成をみる異型上皮の浸潤性発育。 高分化：癌真珠の形成を示す角化の強いタイプ。最も多い。 低分化：角化がほとんどないタイプ。異型性が非常に強い。 中分化：その中間。



高分化型扁平上皮癌の組織像は高頻度に出題されている。94 回は 3 問出題された。どれも比較的平易な組織像であり確実に正解しなければならない。基本は癌真珠を探すことである。扁平上皮癌の発生部位は、国家試験では歯肉が多い。肉眼的所見は潰瘍性が多く、ついで白色病変である。

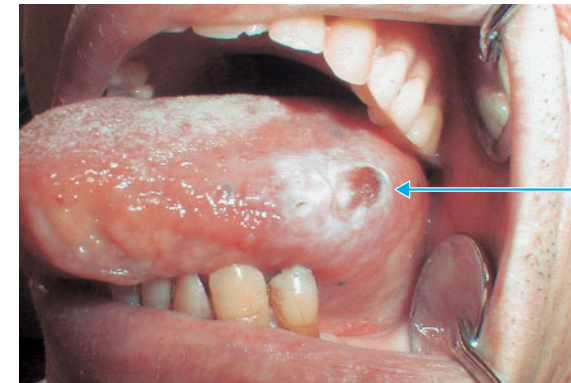
国家試験での平均年齢は 66 歳であるが、近年、口腔扁平上皮癌は若年化の傾向があるので、30 歳代の症例が出題される可能性があることも考慮しておきたい。

経過は、基本的には数か月単位での出題である。プール問題での出題が 2 回あった。

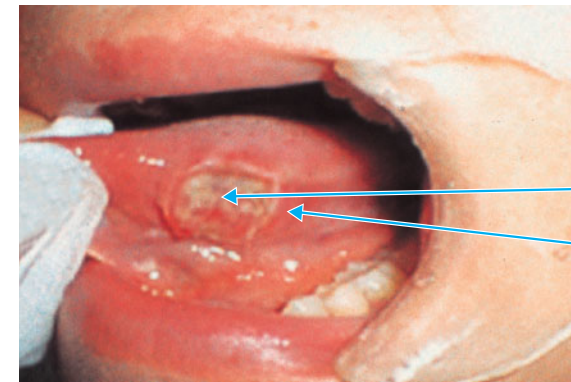


経過が 1~4 か月程度で、50 歳以上、潰瘍性病変があれば間違いなく扁平上皮癌の問題である。癌真珠を探すこと。

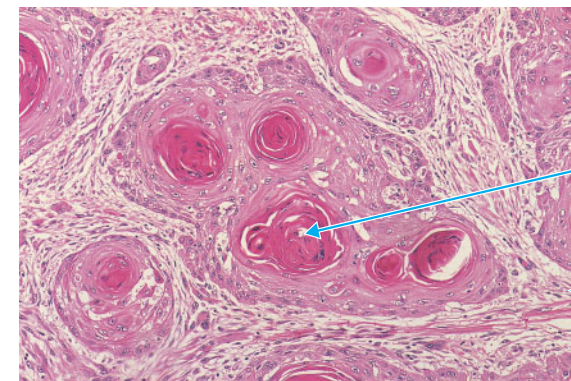
関連事項：扁平上皮癌の亜型として、疣贅性癌と紡錘細胞癌がある。疣贅性癌は、上皮内に癌がとどまっているが、下方へ進展し浸潤を示す。しかし転移しない予後のよい悪性腫瘍である。紡錘細胞癌は、肉腫を思わせるような紡錘形細胞の密な増殖が認められるが、免疫組織化学的染色でケラチンに陽性を示し、扁平上皮の特徴をもつ。



境界不明瞭
白斑とびらんの混在

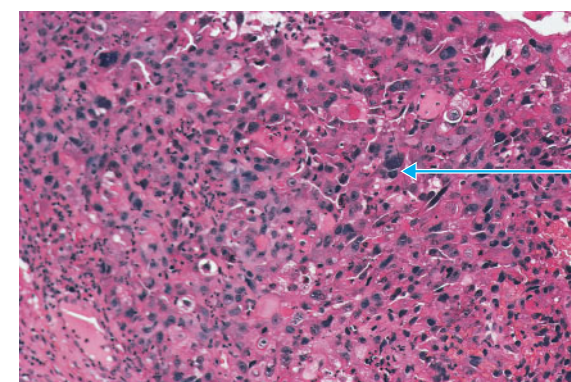


癌性潰瘍
堤防状の隆起



←高分化型扁平上皮癌

癌真珠
間質



←低分化型扁平上皮癌

強い異型細胞